



## 神様が見ています

岩井コスモ証券  
代表取締役会長CEO

沖津 嘉昭

私は、子供（小学生）の頃から、何事においても「好奇心」が強かった。

例えば、街から山並みが見えると、「あの山の向こうには、どんな景色が広がっているのだろう！」と思い、また、子供用の自転車で街を走り、突き当たりが見えると、「右に曲がるとどんな光景が見えるのか…」と無我夢中でペダルを踏む少年だった。

中学時代には、数学の授業中に世界地図を広げ「世界漫遊」を楽しんでいたら、教師に大目玉を食らった。

しかし、こうして徐々に「死ぬまでに地球上を全部見てみたい」という思いが強くなり、社会人になったのち、この積年の思いを果たすことになる。

今日に至るまで207都市（地域）を訪れた。コロナが流行する直前にイスラエル全土を訪れ、これで目的を貫徹することに…。

この間、40才代の頃には、毎夏、リュックを背にスニーカー姿で、欧州の古い街並みをさまよう「海外ひとり貧乏歩き」を楽しんだ。

街を歩いて旅をすると市民の宗教観も見えてくる。

ベニスでバボレットと呼ばれる水上バスに乗るために切符を買った。しかし、改札もなければ検札もない。切符はポケットに残ったままだった。



夕刻、宿泊先近くの Pasta 屋さんでウエイトレスさんに、「あの方式なら切符を買わないで乗船する人も大勢いるのでは？」と聞いてみた。

すると、彼女は開口一番、「そんな人は一人もいません！だって、神様が見ています」とピシャリ。宗教の一面、本質、真髓に直面した思いがした。

神に対する敬虔な思い。彼らの幼少期からの宗教への接し方を思うと、宗教に根差す諸々の思いが脳裡に浮かぶ。宗教の良い面とそうでない部分。異質なものを受け入れれないものと、全てを包含する思想。

私は、東洋人に生まれて良かったと思っている。